

チョーライ病院脳神経外科では下垂体腫瘍や頭蓋底腫瘍に対して最近経鼻内視鏡手術を導入したが、まだ経験や道具の面で不足しているところが多い。また本手術は当院では脳神経外科と耳鼻咽喉科の協力体制で行っているが、チョーライ病院では協力体制ができていない。それらの点に関して先方からエキスパートによる技術指導・講演の依頼があり、私と耳鼻咽喉科田中医師で訪問した。現地では、昨年当科に 2 週間研修に来ていた Dr. Khiem が他の 2 名の医師とともに経鼻内視鏡手術のチームを立ち上げ、いま経験を少しずつ増やしているところということであった。

この手術では他領域の内視鏡手術同様、高性能の内視鏡や専用の手術器具など、器具の性能によって結果が左右される部分が多い。その為、現地の道具で手術をするのはリスクも伴うということで、今回は自分では行わない予定であった。しかしながら、実際に行ってみると、是非手術をしてほしいと頼まれてしまい、ここで断るのも情けないし、実際にやってみせるのに勝る指導方法はないかと思い、引き受けてしまった。結局滞在 5 日間のうち、4 日間は毎日症例の手術を行った。手術においては、内視鏡が胸部外科用の太いものであるため鼻腔のスペースが狭くなり、また映像も霧がかかったような状況でよく見えず、当然ナビゲーションもなく、いつも使っている道具もない状況で不安でいっぱいであったが、何とか現地の道具を使って、現地の先生に協力してもらいながら全ての症例で完遂することができた。こういう状況でも何とかなるものだと、驚いたとともに、最小限の道具を使って、安全に、なおかつ最大限できることを行えるかということも、外科医の大切な能力なのではないか、とも思った。症例としては、特に今までは先方では開頭手術で行っていたような巨大な頭蓋咽頭腫症例や、胚細胞性腫瘍などの症例に対し、初めて経鼻内視鏡手術にて低侵襲な治療が行えたことに対し、多くの医師が感銘を受けてくれたようである。患者さんも術後経過が良くて喜んでいてということだったので、ほっとしている。

今回は技術指導ということであったが、実際には自分自身も大変勉強させていただき、貴重な経験を積ませていただいた。とにかくチョーライ病院脳神経外科は驚くほど症例が豊富であり、毎日大変な症例の手術を現地の先生方とともにやり、終わった後には喜びを分かち合い、また様々な事について討論する日々は非常に刺激的であった。また、ホーチミンは騒がしく、物騒な街ではあるが、若さと活力に溢れていた。ベトナム料理はもともと好きだったが、今回はさらに深いところまで堪能できた。今後もこの活動を継続し、2 国間の人材交流を発展させることの一助になれば幸いである。



経鼻内視鏡手術中の写真。耳鼻科の田中先生と。



術後手術室の外で



経鼻内視鏡手術の講演中



術後にカフェでコーヒーを飲みながらディスカッション。

最終日、耳鼻科病棟での送別会

